

彦根統合新校設置懇話会 第2回会議 概要

1 日 時

平成25年7月17日(水) 10:00~12:00

2 場 所

ひこね燦ぱれす 会議室

3 会議内容

- (1) 校名の選定方法について
- (2) 部活動について

4 出席者

(1) 委 員

岡崎 正彦 委員(彦根市PTA連絡協議会 会長)
杉本 定幸 委員(彦根翔陽高等学校同窓会 会長)
福渡 努 委員(滋賀県立大学人間文化学部 准教授)
藤田 隆行 委員(彦根西高等学校同窓会 会長)
堀川 英雄 委員(彦根市企画振興部 部長)
宮野 由紀絵 委員(彦根西高等学校 学校評議員)
八谷 啓子 委員(彦根翔陽高等学校 学校評議員)

(2) 統合新校開設準備室等

小林 庄司 統合新校開設準備室長(彦根翔陽高等学校長)
篁 大英 統合新校開設準備室参事(彦根西高等学校長)
茶谷 不二雄 県教育委員会事務局学校支援課参事

5 主な意見

(1) 校名の選定方法について

- 一般公募は良いと思うが、選定にあたっては懇話会の意見を尊重してもらいたい。
- 応募期間は一定期間必要だが、長くても短くてもいけない。1か月程度と考えてよいか。
- 校名公募については、メディアを活用すべき。彦根市の広報誌、各社の新聞、県のホームページ、県教委発行の新聞に掲載してほしい。
- 在校生や保護者についても、あくまで一般公募で応募してもらうことを想定している。
- 公募で応募のあった校名について懇話会から意見をいただいて、ある程度絞っていききたいと考えている。
- 校名は応募数が多いものから、または、アイデアで選ぶのか。
- 現在の校名が組織票で多くなるということも予想される。現在の校名は応募できないと

いうことにすべきではないか。

- 現在の校名は応募できないという意見は賛成できない。校名を残す方法があるなら、その道を残しておいてほしい。
- 応募数が多いということを選ぶ理由としない方がよい。
- 応募条件を制約しない方法で実施したいと考えている。
- 他府県に在住の同窓生が応募する場合、応募資格の確認のため、学校名と卒業年度を記入してもらおうとよい。勤務先等の個人情報記入しない方がよい。
- 一般公募をするときには、校名の発表方法を示した方がよい。また、公表時には、どのような校名が応募されたかについても公表すべき。
- 教育理念等については、次回の懇話会で意見を伺う予定である。再編計画に示している内容を募集要項には盛り込んで公募したいと考えている。
- 公募に当たっては、どのような手順で選考するかを簡単に示すだけでよい。
- 校名募集を実施するスケジュールや要項等は、長浜新校の取組と一定合わせた形で実施したいと考えている。

(2) 部活動について

- 平成28年度に新校に設置する部活動は、運動部15部と文化部13部を考えているが、これについてご意見を伺いたい。
- 9クラス規模の部活動数としては少ないのではという意見もあるが、例えばサッカー部については、現在活動実績がなく、練習場所の確保に課題が想定されるなどの理由から設置しない方向で考えている。
- 新たに部活動を設置することは、新校を開校した時点で検討すればよいという考えに立っている。
- 魅力ある学校を作るためには部活動は大切。全国大会に行ける部活動をいくつも作ってほしい。
- 校外の施設の使用やグラウンドの拡張を検討すべきでは。現状ではサッカー部の設置は難しいかもしれないが、校外の施設を使用することも見据えた検討をしてもらいたい。
- 既設の部活動をなくすのは、顧問の配置や練習場所の確保が課題となるためである。
- 文化部では、新聞部や放送部があっても良い。
- 書道、吹奏楽など、合同で練習や発表会ができると活性化できる。
- 平成28・29年度の2年間の移行期間が課題となっている。別々の校舎で活動できれば問題ない。
- 県教委で外部施設を利用するための補助を予算計上していただいて、練習できる環境を整えてもらいたい。
- 開設準備室が隣接する土地の取得も含めて、設備要求をしっかりとってもらいたい。